

## 特集：卒業

さあ、これからどう生きるか？

桑原 朋彦（筑波大学 生命環境科学研究科）

大学を卒業して胸は弾むものの、さあ、これからどう生きるか、と思っている卒業生も多いと思います。私が33年前に大学を卒業したときも、そのように思いました。しかし、卒業する者の思いは同じでも、今年だけは今までとは違います。2008-2009年は日本のこれまでのシステムが音を立てて変わろうとしている、それこそ10年に一度の転機です。

転機だと思ふ理由をあげます。国内では、民主党のO氏関連、自民党のN氏関連の団体への検察の調査がありました。これらは日本の政治の灰色な部分を暴くアクションであり、O氏自身も言っているように、今までの日本の政治にはありえないことでした。いろいろ事情はあると思いますが、私は不況を契機に日本の良心が表に出てこようとしていると解釈しています。アメリカではオバマ氏が大統領に選出されました。人種差別的な考え方はアメリカからはなくなるといふ人もいますが、黒色人種であるオバマ氏がアメリカの大統領に選ばれたことはアメリカの良心を表しているのかもしれませんが、世界がサブプライム問題を契機に動き出している感があります。

この転機ではどうも世の中が良心に向かって舵を切っているような気がします。身近には、高速道路の通行料金が1000円という試みにより、料金体系が本来あるべきあたりまえの姿に近づいています。CO<sub>2</sub>を排出しないことが現実の価値となる仕組みが作られつつあります。エネルギーは石油から水素の時代へ変わることを予見する動きが見られます（例えば、九州大学や民間の水素関連プロジェクト）。水素が酸素と結びつくことによりエネルギーを放出しても、水ができるだけCO<sub>2</sub>を排出せず、環境を汚しません。個人的には、これこそ水の星、地球、にあるべきエネルギー利用の姿だと、美しささえ感じます。

転機を転機と認識しなければ、時が過ぎたあと、あれが転機だったと気づくだけで、認識すれば、その時点で転機は好機になります。ですから、卒業を記念してこの文章で、そのことを記しました。この文章を読んだ卒業生の皆さん、ピンチだ、やばい、と思ったときは実はチャンス、ということが人生には数多くあります。今もそのときです。どのようにこのチャンスを生かすか、柔軟な頭で思考してください。

私が担当した2クラスは、2人が就職し2人が留年した他は、全て大学院あるいは他学へ入学したと理解しています。大学院に進んだ学生の中には将来は研究者になろうと決めている人もいれば、就職難ということもあり、とりあえず大学院に進んだ人もいと推察します。当分、就職環境は改善しないと新聞でも取りざたされていますが、就職するためには最初の1年間にどのような準備をしたらいいのか、悩んでいる人もいることでしょう。

私の出身実験室の忘年会で、研究所の所長をしている後輩に、この就職難の折に企業側はどういう人を取りたいと思うか、と尋ねてみました。「実際、調書などを読んでも、面接で話を聞いても、研究の深いところまでは理解できないことが多い。どれだけの知識があるかよりも、どれだけ熱意を持って今やっている研究を語れるか、直面する問題をどのようにして解決したかあるいは解決しようとしているか、そのような状況を他人にわかりやすく説明できるか、を見る。」というようなことを言っていました。なるほど、上に立つ人の言葉です。わかりやすく報告できない部下はストレスのもとですから、給料を払ってまで一緒にいたくないですね。彼の言葉を聞いて、私はすぐに林純一郎先生の顔を思い浮かべました。熱く語れるというのは評価されるべき能力なのです。

これからは良心の時代になろうとしています。うまく立ち回って就職してやろうとか、潜り込もうとかは思わないほうがよさそうです。結局、今できる、誰にでもできる確実な努力は今の研究を一所懸命やり、熱く語れるようにすることのようです。熱く語るためには研究のどこが面白いのか、何故面白いのかということの説明できなければいけません。これらを説明するためにはよく勉強しておかなければなりません。なるほど、熱く語ることは評価項目として適当なようです。このことは留年した人たちにも言えますね。

就職した人たちのためにも一言残しておきたいのですが、ビジネスの経験がないため適当なサジェスションができません。そこで消費者の立場から一言だけ：「供給する側の独りよがりには消費者はついていけない」ということです。よい例は「地デジ」普及率が低いことです。2011年の7月から今までのアナログが見られなくなると、しつこく放送していますが、昨年末の時点で日本の世帯の半分以上は未だアナログのままです。これは地デジのメリットの中で消費者の心に響くものが少ないということを示唆しています。供給する側が便利になるためのコストを何故消費者が負担しなければならないか、という気持ちがあるものと推察されます。世間の一步も二歩も先を見つつ、半歩先を歩くのは難しいことですね。先走ってはいけません。大事なのは消費者のニーズです。

進学あるいは留年してこれからも学問に携わる人も、就職して社会にでた人も「初心忘るべからず」、今の初々しい心をいつまでも忘れないで、新しい世界で活躍することを祈っています。を祈っています。